



## ～時 間～

校長 大野 和孝

あけましておめでとうございます。子供たちの明るい笑顔とともに2026年の平方小学校がスタートしました。始業式の朝、寒さを吹き飛ばすくらい元気な挨拶を返してくれた子がたくさんいました、中には、年始の挨拶を返してくれた子もいます。ご家庭で安全に、楽しく年末年始を過ごしたことがうかがえました。

今年の十二支は午です。十干と組み合わせた干支は、「丙午(ひのえうま)」です。丙と午が重なるこの年は、数ある干支の中でも強いエネルギーと輝きに満ちていると言われています。この丙午の年にちなみ、本校といたしましても、子供たちが心に火を灯し、馬が野原を駆け抜けるがごとく、新年度に向けて力強く突き進めるよう、全教職員で取り組んでいきます。引き続き、保護者・地域の皆様のご理解、ご協力をお願ひいたします。

さて、皆様は「一年が経つのが、年々早くなっている」と感じることはありますか。ついこの間お正月を迎えたと思っていたら、もう年末が近づいている……そんな感覚に陥る方もいらっしゃるのではないかでしょうか。一方で、子供たちの様子を見ていると、彼らにとって一日は、私たち大人よりずっと長く、濃密なものであることに気づかされます。たとえ15分間の休み時間であっても、校庭に出て全力で遊んでいる姿を見ると、私が感じている時間とは別の時間の長さで過ごしているのだろうと思うことがあります。

心理学の世界に、「ジャネの法則」という用語があります。人間の体感時間は、それまで生きてきた年齢に反比例するという考え方です。例えば、十歳の子供にとっての一年は、これまでの人生の1／10を占めます。五十歳の大人にとっての一年は、人生の1／50に過ぎません。同じ時間であっても、十歳の子供の体感時間は、五十歳の大人の五倍もの長さを感じているということです。確かに私が子供の頃、一週間がとても長く感じていたような気がします。小学校生活を送る中で、大人になるまでには、途方もない時間を過ごさなければならないことを考えていました。

これは感覚的な話であり、科学的な根拠が明確にあるものではありません。しかし、体感時間と同様、子供の頃に大きく鮮やかに感じた建物や広々とした公園が、大人になってそうではなくなっている感覚は誰しもあるかと思います。子供たちはその小さな体で、毎日新鮮な驚きや発見を受け止め、一つ一つ丁寧に、全力で向き合っています。経験の密度が濃いからこそ「心の時計」はじっくりと力強く時を刻んでいるかもしれません。私の子育てを振り返ると、忙しさを言い訳に私の体感時間に子供を付き合っていた気がします。子供が感じた驚きを、自分が経験したことのある一部と捉え、共感できなかったこともあったと思います。

子供たちが一生のうちで最も鮮やかに感じるこの時期。その時間を校長として共有できる喜びを大切にしたいと思っています。半年だけに、駆け抜けるように日々が過ぎてしまった…と、ならないように…。